



岩瀨 栄記さん (81) 茂子さん (80)

東和町・米川8区 1957年(昭和32年)1月入籍

人生『楽あれば苦あり、苦あれば楽あり』

★結婚当時の思い出は

【榮記】津山町の横山不動尊のお祭りさ、近所の友だちと自転車で行く途中、道間くべって声かけたんだ。

【茂子】実家は登米の針田で、自転車こいでだんだんでは。そのあと、何だか分かんねえけど一緒にあったんだね(笑)

【榮記】結婚してからは二人で炭焼きしたんだ。炭焼きさ歩ったのが新婚旅行だ(笑)

【茂子】炭焼きなんてしたことねがったがねえ。おじいさんが窯出しで真っ黒になつて出で来たのがおがしくてね。

★印象深い出来事は 【茂子】おじいさんが40歳ぐらいの時に、仕事で4層の高さから落っこって、医者から

3日持たないって言われたときは涙も出ねがったで。

★現在の楽しみは

【榮記】昔から働くことが趣味みたいなもんだ。今はニラ作って農協さ出荷してんだ。絶対手抜きはしねえよ。

【茂子】踊りとか見さ行くのが楽しみだね。旅行も孫たちにも誘われつつから行くで。

★夫婦円満のコツは 【2人】ケンカすたことねえな。余計なこと言わねえの(笑)。

★やりたいこと

【2人】若い頃は、みんな生きるために稼がないといけなくて苦労しながら、欲はかがないで。今のまま自分だけのペースで過ごしていくべ。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

情報はふるさととの架け橋

東京米山会は3月6日に第33回総会および懇談会を開催。参加者は来賓皆さんのふるさとの情報に耳を傾け、聞き入りました。また、会場に設けられた道の駅米山のふるさとの物産は、その場でいただく人、家族へのお土産にする人など毎年大人気です。その時間だけは幼年に戻り、昔話やふるさとの話題に花が咲いています。また、しばらく帰省してない人には最近帰省した人の土産話で盛り上がり。当会も登米市誕生とともに会員を中心に運営することとなり、今年で10年。当初は何をするにも右往左往するばかり

佐竹 正三さん (65)

登米市在京町人会連絡協議会役員 東京米山会総務総括 米山町(中埜)出身



りで結果が出せませんでした。でも昨年よりは今年、今年よりも来年の思いで早くも10年がたちました。しかしながら現在は、会員の高齢化と減少に悩んでいるところであり。ふるさとへは新幹線で2時間余り、車で4時間弱と近くなりました。都の片隅で酒を酌み交わしながらふるさとを思う時代では無くなったのでしょうか。会員の中には代替わりしてふるさととのつながりが薄くなった人などいろいろですが、皆の心の奥には必ずふるさとがあります。

正月に東京ドームで開催されるお国自慢ふるさと祭り、麻布十番夏祭り、宮城ふるさとプラザでの登米市フェア。昨年8月に両国国技館で行われたチビッ子相撲大会には、連絡ができなかった会員も多数応援に駆け付けてくれました。皆、心の奥にあるふるさとを思うDNAに呼び寄せられたのでしょうか。まだまだいろいろないイベントを行っていると思えますが情報不足が足りません。もつといただければ会員の皆さんにも多く参加していただけたと思います。ぜひ、ふるさとの情報を首都圏をはじめ多くの皆さんへ発信していただきたいと思えます。

中でも売れ筋は定番の油麩と瓦煎餅。油麩は市内8社のものを置いています。店によって違いがありますのでお好みのものを探してみるのもいいですね。また、1880年の創業時から続く登米名物、田辺菓子店の「太白飴」は10月5月の期間限定商品。砂糖は一切使用せず、もち米と麦芽を原料にした自然な甘みの飴です。 【問い合わせ】とよま観光物産センター「遠山之里」 ☎0220(52)5566

おらほの物産

とよま観光物産センター「遠山之里」



「みやぎの明治村」の観光拠点



河内専務(左)と社員の皆さん

今月は、とよま観光物産センター「遠山之里」の河内安雄専務にお話を伺いました。 Q「遠山之里」の特徴などについて教えてください

登米町には、明治時代の洋風建築などが多く現存し、その町並みから「みやぎの明治村」と呼ばれています。町の中

心部にある「遠山之里」は、地域の観光拠点施設として平成12年にオープン。教育資料館など各資料館のチケット販売や観光案内をしています。また、併設の食事処「蔵ら」の麺類や郷土料理は好評です。 これからの季節は、とよま茶会(4月29日)の開催や武家屋敷通りのシタレザクラが咲き、見どころ満載となります。ぜひお越しください。 Qお勧めのものなどを教えてください



ここでは市内のお土産を購入入することができます。その

婆見てと子猿の如く忽ちには ジャングルジムの頂上の二才児

冬の空見上げし星の輝きよ 今ここにあり命の輝き

ミニデイに初の参加で笑顔にて お昼お美味く感謝の春

チリ鍋を囲み地ビール談議する 父と息子眺め心ほのぼの

朝もやに群なす雁の北帰行 宿命背負いて黒き騒めき

水野トヨコ (米山)

佐々木まき (石越)

佐藤よしの (石越)

三上久美子 (南方)

佐々木秀子 (津山)

応募総数25作品

まちの文芸

短歌

作品募集! 5月号は俳句、川柳です。住所・氏名電話番号を記入し、3月31日(木)まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

夕ぐれに引くカーテンのすき間から やさしく光る金星の見ゆ

職退きて野菜作り励む吾子 葱のできばえ亡夫に見せし

ハネハネの笠を欲しいと泣きし孫 あげられないの抱子笠に笑ふ

老いて尚すこやかならんとアロエ葉を きざみジュースの朝の一杯

官林のふくろうカッコウほととぎす 消え失せ今は赤トンボも見ず

相澤 志子 (東和)

小野寺典子 (中田)

佐々木恒子 (中田)

千葉 源治 (中田)

折居由紀子 (米山)